



## コンテンツ

プログラムについて

2002-2015年メンターおよびプロトジェ

2014-2015年度メンターおよびプロトジェ

- 建築
- 舞踊
- 映画
- 文学
- 音楽
- 舞台芸術
- 視覚芸術

2001-2015年アドバイザー

ロレックス・インスティテュート



## プログラムについて

ロレックス メンター&プロトジェ アート・イニシアチヴは国際的なフィランソフィー活動であり、ジュネーブにあるロレックス本社の専門チームにより運営されています。このプログラムは世界中の才能あふれる若いアーティストと各分野の第一人者を結びつけ、一対一の指導を通じて1年間にわたり相互交流を行う機会を提供します。

### 歴史と目的

ロレックス メンター&プロトジェアート・イニシアチヴは、2002年6月に設立されました。2年に1度実施され、今回(2014-2015年度)で7回目の開催となります。このプログラムは、世界の芸術的遺産の継承に貢献することを目的としています。創業以来、優れた才能を持つ個人を支援してきたロレックスは、新進気鋭のアーティストたちに学びと創作、そしてさらに大きく成長するための時間を提供します。

### プログラムの内容

ロレックスは建築、舞踊、映画、文学、音楽、舞台芸術、視覚芸術の各分野の第一人者を迎え、才能あふれる若いアーティストたちに一対一の指導を依頼します。各分野における指導者(メンター)が1年間にわたって1名の若いアーティスト(プロトジェ)に育成と助言を行います。

### メンターの選出

2年に1度、著名な芸術家や専門家からなる顧問委員会が結成され、メンターの候補者を推薦します。

### プロトジェの選出

メンターに参加の意思を確認した後、コラボレーションのパートナーとして彼らが求めるプロトジェ像を確立します。その後、7つの各分野に、プロトジェの候補を選出する専門家による推薦委員会が設けられます。選考プロセスの公平性を確保するため、選出期間中は各委員の名前は明かされません。また、アーティストが自らこのプログラムに応募することはできません。各委員会のメンバーがプロトジェの候補者を挙げ、その後、ロレックスが各候補者に応募を呼びかけます。委員会は応募書類を検討し、各分野で3~4名の最終候補者が選ばれます。最後に、メンターと最終候補者との面談を経て、メンター自身がプロトジェを決定します。

### 指導期間

メンターとプロトジェは最低6週間を共に過ごすことになっていますが、多くのペアが知識や体験の共有にそれ以上の時間を費やしています。指導の場所や時間は互いの合意で決めることができるため、プロトジェがメンターの職場を見学したり、メンターとプロトジェが実際にコラボレーションを実施するなど、自由な交流が行なわれています。指導期間終了後、参加者はゲストとしてロレックスのガラ・イベントに招待されます。

### **助成金**

1年の指導期間中、各プロジェクトには25,000スイスフランの助成金に加え、旅費および諸経費が支払われます。1年の指導期間の終了後には、さらに25,000スイスフランの追加支援が可能です。これは新規の作品、出版物、公演、公共イベントなどの資金として提供されます。各メンターには、感謝の意を表して75,000スイスフランの謝礼が渡されます。

### **成果**

1年間の指導期間終了後も、ロレックスはプロジェクトとの連絡を維持し、彼らのキャリアを追い続けます。プロジェクトのその後の活躍は様々であり、新作小説、新しい舞台製作、メンターが主催するダンスカンパニーへの入団、メンターとの共同作品の制作など、このプログラムがもたらす成果は多岐にわたります。ロレックスはこのプログラムが若いアーティストに及ぼす影響は将来にわたって継続するものであると考えます。

### **アーティストたちのコミュニティ**

2002年の設立以来、ロレックス メンター & プロトジェ アート・イニシアチヴは368人のアーティストや芸術界の第一人者、その他の著名文化人たちを迎えており、その中にはメンターを選定するアドバイザー101人と、プロジェクトの選定に協力して下さった208名のノミネーターの方々も含まれています。プログラムの参加者は世界中から集まっており、40ヶ国以上のアーティストによるコミュニティが形成され、プログラムは回を重ねるごとに豊かに深みを増していっています。



## 2002-2015年メンターおよびプロトジェ

### 建築

(建築分野は2012年からスタート)

ピーター・ズントー (スイス)	グロリア・カブラル (パラグアイ共和国)	(2014-2015)
妹島和世 (日本)	ヤン・チャオ (中国)	(2012-2013)

### 舞踊

アレクセイ・ラトマンスキー (ロシア)	マイルス・サッチャー (米国)	(2014-2015)
リン・ファイミン(林懷民) (台湾)	エドゥアルド・フクシマ (ブラジル)	(2012-2013)
トリシャ・ブラウン (米国)	リー・サール (オーストラリア)	(2010-2011)
イリ・キリアン (チェコ共和国)	ジェイソン・アキラ・ソンマ (米国)	(2008-2009)
アンヌ・テレサ・ドゥ・ ケースマイケル (ベルギー)	アナニ・ドッティ・サノヴィ (トーゴ共和国)	(2006-2007)
勅使河原三郎 (日本)	ジュナイド・ジェマル=センディ (エチオピア)	(2004-2005)
ウィリアム・フォーサイス (米国)	サン・ジジア (中国)	(2002-2003)

## 映画

(映画分野は2004年からスタート)

アレハンドロ・ゴンザレス・イニャリトゥ (メキシコ)	トム・ショヴァル (イスラエル)	(2014-2015)
ウォルター・マーチ (米国)	サラ・フガイエ (イタリア)	(2012-2013)
チャン・イーモウ(張藝謀) (中国)	アンマリー・ジャシル (パレスチナ/ヨルダン)	(2010-2011)
マーティン・スコセッシ (米国)	セリーナ・ムルガ (アルゼンチン)	(2008-2009)
スティーヴン・フリアーズ (英国)	ヨシュア・メンデンス (ペルー)	(2006-2007)
ミラ・ナイール (インド)	アディタ・アサラット (タイ)	(2004-2005)

## 文学

マイケル・オンダーチェ (カナダ)	ミロスラフ・ベンコフ (ブルガリア)	(2014-2015)
マーガレット・アトウッド (カナダ)	ナオミ・アルダーマン (英国)	(2012-2013)
ハンス・マグヌス・エンツェンスベルガー (ドイツ)	トレシー・K・スミス (米国)	(2010-2011)
ウォレ・ショインカ (ナイジェリア)	タラ・ジーン・ウィンチ (オーストラリア)	(2008-2009)
タハール・ベン・ジェルーン (モロッコ)	エデム・オウメイ (トーゴ共和国)	(2006-2007)
マリオ・ヴァルガス・リョサ (ペルー)	アントニオ・ガルシア・アンヘル (コロンビア)	(2004-2005)
トニ・モリスン (米国)	ジュリア・リー (オーストラリア)	(2002-2003)

## 音楽

カイヤ・サーリアホ (フィンランド)	ヴァスコ・メンドンサ (ポルトガル)	(2014-2015)
ジルベルト・ジル (ブラジル)	ティナ・エル・ウェティディ (エジプト)	(2012-2013)
ブライアン・イーノ (英国)	ベン・フロスト (オーストラリア)	(2010-2011)
ユッサー・ンドウール (セネガル)	アウレリオ・マーティネイズ (ホンジュラス)	(2008-2009)
ピンチャス・ズッカーマン (イスラエル/カナダ)	デイヴィッド・アーロン・カーペンター (米国)	(2006-2007)
ジェシー・ノーマン (米国)	スーザン・ブラッツ (カナダ)	(2004-2005)
故 サー・コリン・デイヴィス (英国)	ヨゼップ・カバリエ＝ドメネク (スペイン)	(2002-2003)

## 舞台芸術

ジェニファー・ティプトン (米国)	セバスチャン・ソローザノ・ ロドリゲス (メキシコ)	(2014-2015)
故 バトリス・シェロー (フランス)	ミハウ・ボルチュフ (ポーランド)	(2012-2013)
ピーター・セラーズ (米国)	マヤ・ズビブ (レバノン)	(2010-2011)
ケイト・ヴァルク (米国)	ナウエル・ペレス・ビスカヤート (アルゼンチン)	(2008-2009)
ジュリー・テイモア (米国)	セリーナ・カートメル (英国)	(2006-2007)
サー・ピーター・ホール (英国)	ラウラ・フット (南アフリカ)	(2004-2005)
ロバート・ウィルソン (米国)	フェデリコ・レオン (アルゼンチン)	(2002-2003)

## 視覚芸術

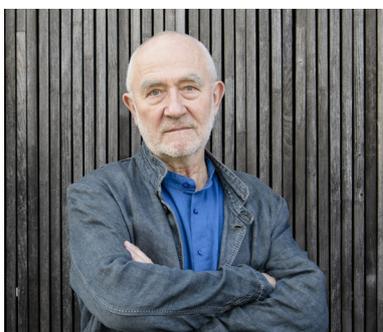
オラファー・エリアソン (デンマーク)	サミー・バロジ (コンゴ民主共和国)	(2014-2015)
ウィリアム・ケントリッジ (南アフリカ)	マテオ・ロベス (コロンビア)	(2012-2013)
サー・アニッシュ・カプーア (英国)	ニコラス・フロボ (南アフリカ)	(2010-2011)
レベッカ・ホーン (ドイツ)	半田真規 (日本)	(2008-2009)
ジョン・バルデッサリ (米国)	アレハンドロ・セサルコ (ウルグアイ)	(2006-2007)
デイヴィッド・ホックニー (米国)	マティアス・ヴァイシャー (ドイツ)	(2004-2005)
アルヴァロ・シザ (ポルトガル)	サヘル・アル=ヒヤリ (ヨルダン)	(2002-2003)

  
**ROLEX**  
*Mentors & Protégés*

## 2014-2015年度メンターおよびプロトジェ

### 建築

メンター(指導者): ピーター・ズントー



広く称賛されるスイスの建築家、ピーター・ズントー(1943年4月26日生まれ)は、素材と光を巧みに融合させ、感性に挑むようにして造り上げる、時を超越した建築物で世界的な名声を手に入れています。「建築の言語とは特有のスタイルの問題ではない。どのような家も特定の目的、特定の場所、特定の社会のために建てられている。」と、プリツカー賞受賞者のズントーはその著書『*Thinking Architecture*(建築を考える)』の中で話します。

ズントーは父親の家具製造会社で働いた後、バーゼルおよびニューヨークのプラット・インスティテュートでデザイナー、建築家として研修を積みました。10年以上にわたり歴史的建造物の修復の仕事に携わった後、1978年にスイスのハルデンシュタインにアトリエを設立し、現在も少数人数のスタッフとともにそこを拠点としています。ズントーはまた、アメリカやヨーロッパで建築学の教授としても活躍しています。

ズントーの代表的なプロジェクトの中には、刺激的なスペースの使い方と洗練された建築ディテールで有名な傑作『*Therme Vals*(テルメ・ヴァルス)』(1996年、スイス)や、『*Kunsthau Bregenz*(ブレゲンツ美術館)』(1997年、オーストリア)、『*Swiss Sound Box, Swiss Pavilion Expo 2000*(スイス・サウンド・ボックス、ハノーヴァー万博スイスパビリオン)』(2000年、ドイツ)、『*Bruder Klaus Field Chapel*(ブルーダー・クラウス野外礼拝堂)』(2007年、ドイツ)、『*Kolumba Art Musium*(聖コロンバ教会ケルン大司教区美術館)』(2007年、ドイツ)などがあります。近年では、ガーデンデザイナーのピエット・オウドルフとともに製作したロンドンの『*2011 Serpentine Gallery Pavilion*(サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2011)』、アーティストのルイーゼ・ブルジョワとともに製作したノルウェーの『*Steilneset Memorial*(魔女裁判の犠牲者達のための記念館)』、そしてオーストリア、アンデルスブッフの『*Werkraumhaus*』(2013年)があります。

先頃、ズントーはロサンゼルス郡立美術館を21世紀の美術館として再生させるプロジェクトを引き受けました。そして現在の構造の一部を、新しい太陽光発電を備えた建築に置き換えるという計画を発表しました。

これまでに受賞した数々の賞に加え、近年では高松宮殿下記念世界文化賞(2008年)や、2013年のRIBA ロイヤル・ゴールド・メダルを受賞しました。プリツカー賞の審査委員長パルンボ卿は2009年の授賞式でズントーを称え、こう話しました。「彼の建築はその土地に根付く文化遺産と建築史における計り知れないほどの教えを表現している。」

## プロトジェ(生徒): グロリア・カブラル



パラグアイの建築家、グロリア・カブラルは、*objects d'art*(美術品)として空間をとらえるのではなく、その使い方を考えて建物を設計しています。両親から芸術とエンジニアリングの両面で影響を受けたと語るカブラルは、アスンシオン国立大学で建築を学びました。在学中にアスンシオンに拠点を構える大手設計事務所、Gabinete de Arquitectura(カビネテ・デ・アルキテクトウラ)にインターンとして採用され、2004年にジェネラル・パートナー(無限責任社員)として迎えられました。以来10年間、彼女はGabineteのチームと共に環境・社会問題を大きく反映したプロジェクトに携わっています。中でもテレトン基金小児リハビリテーションセンターは2010年度ビエナル・パナメリカーナ(Bienal Panamericana)のリサイクル部門で1位を獲得しました。熱心な教師でもあるカブラルは、2009年以来アスンシオン国立大学で教鞭を取っており、パナマやペルーの大学でも客員教授を務めるほか、南米諸国の大学でも講義を行っています。仕事に対する共同アプローチを強く信じるカブラルは、ピーター・ズントーによる指導から自分を成長させパラグアイ国外での国際的な認知や経験を得るだけでなく、ズントーとの師弟関係に自ら貢献したいと願っています。

生年月日: 1982年3月15日

## 舞踏

### メンター(指導者): アレクセイ・ラトマンスキー



世界で最も影響力があり、人気の高い振付家のひとりとして広く知られるアレクセイ・ラトマンスキー(1968年8月27日生まれ)は、現在アメリカン・バレエ・シアターの常任振付家として活躍しています。古典的芸術の原点を大切にしながら活力のあるストーリー作りでバレエに改革をもたらし、高い評価を得ています。「ラトマンスキーにとって、すべては音楽から始まる。」と友人であり、同僚であるロシア人のミハイル・バリシニコフは話します。

身体能力と音楽センスに恵まれたラトマンスキーは、10歳でモスクワのポリショイ・バレエ・スクールに入学。1986年に伝説的バレエ教師ピョートル・ペストフのクラスを卒業するとすぐに、キエフのウクライナ・ナショナル・バレエに入団し、そこでプリンシパルになりました。

6年後、西洋のバレエスタイルを探求するために同バレエ団を退団しました。初めて依頼を受けた、バレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリのための作品がきっかけとなり、キーロフ(現マリインスキー)・バレエやポリショイ・バレエ団などの名門バレエ団のために振付を担当することになりました。西側諸国からの最初の依頼は、デンマーク・ロイヤル・バレエ(2001年)、スウェーデン・ロイヤル・バレエ(2002年)、サンフランシスコ・バレエ団(2003年)でした。2004年、ラトマンスキーはポリショイの芸術監督としてモスクワへ戻りました。そこで彼は1930年代ソビエト時代のバレエ作品『*The Bright Stream*(*明るい小川*)』(2003年)を初めて復元し、賞を獲得するほどの大成功に導きました。ポリショイでの5年間の2007年にニューヨーク・シティ・バレエのために振付けをした傑作『*Russian Season*(*ロシアの季節*)』などで数々の賞を手に入れています。ラトマンスキーは2009年にアメリカン・バレエ・シアターに移籍。以来、『*On the Dnieper*(*ドニエプル川の岸辺*)』(2009年)、『*Seven Sonatas*(*七つのソナタ*)』(2009年)、『*Waltz Masquerade*(*ワルツ 仮面舞踏会*)』(2009年)、『*Nutcracker*(*くるみ割り人形*)』(2010年)、『*Firebird*(*火の鳥*)』(2012年)、『*Tempest*(*テンペスト*)』(2013年)、『*Shostakovich Trilogy*(*シュスタコーヴィチ三部作*)』(2014年)とすばらしい作品を送り出しています。

ラトマンスキーは長年にわたり、バリシニコフ、ディアナ・ヴィシニョワ、ウエンディ・ウェーランのためにソロ作品を、パリ・オペラ座、スカラ座などのためにもバレエを振付けています。2013年にはイギリスの舞踊団との初の契約としてロイヤル・バレエのために作品を振付けました。同年、ラトマンスキーはマッカーサー・フェローに選出されました。

#### プロトジェ(生徒)：マイルス・サッチャー



クラシックバレエ界の新星としてその多彩な才能を認められているアメリカ人ダンサー、マイルス・サッチャーは、サンフランシスコ・バレエ団の芸術監督であり主席振付家であるハルギ・トマソンから、振付家としての才能を高く評価されています。子供の頃に『くるみ割り人形』のパートに振付けをしたというサッチャーは、「空間でどれだけ身体を動かせるか、無限の可能性に興味をそそられる。」と話します。サッチャーはフロリダのハリッド・コンサバトリーとニューヨークのエリソン・バレエ学校で学んだ後、2008年にサンフランシスコ・バレエ学校の研修生プログラムに参加しました。2009年には実習生として同バレエ団の一員となり、翌年コールド・バレエ(群舞)の一員に加わりました。最近では同バレエ学校の研修生用に『*Spinae*(脊権)』(2011-2012年)と『*Stone and Steel*(石と鋼鉄)』(2013年)の2作品を振付けています。どちらもサッチャーが強く求めたダンサーからのフィードバックにより完成しました。現在彼は、サンフランシスコ・バレエ団の2015年レパトリー・シーズンの作品を振付けることになっています。アレクセイ・ラトマンスキーの音楽性とウィット、そして現代的な作品での古典的語彙の使い方に魅了されているサッチャーは、ラトマンスキーによる指導を心待ちにしています。

生年月日：1990年5月18日

## 映画

メンター(指導者): アレハンドロ・G・イニャリトゥ



映画監督のアレハンドロ・G・イニャリトゥは、人間同士の関わり合いをうまく捉え、ドラマチックなリアリズムにおける複雑な領域を掘り下げる映画作りで高い評価を得ています。彼はメキシコ人として初めてアカデミー賞監督賞にノミネートされました。

イニャリトゥは、貨物船でエンジンにオイルを差す仕事をしながら17歳と19歳のときに2度大西洋を渡り、ヨーロッパやアフリカの各地に滞在するうちに、好奇心が芽生え始めました。1983年に帰国し、メキシコのイベロアメリカン大学でコミュニケーションを学ぶ一方で、ラジオ番組の司会者およびラジオ局のディレクターとしてのキャリアをスタートさせると、その局を当時のメキシコで最も刺激的で人気のあるロック専門の放送局へと変えました。1990年代には、高名なルドウィック・マルグレスの元で3年間舞台を学びながらプロダクションZeta Filmsを設立し、コマーシャルやテレビ番組、短編映画の製作を開始しました。

2000年、長編デビュー作品『Amores Perros(アモーレス・ペロス)』はアカデミー賞外国語映画賞にノミネートされた他、世界中で60以上の賞を獲得しました。その後、2003年に多くの映画スターが出演した『21 Grams(21グラム)』を製作、2006年には3大陸で5言語によって撮影された『Babel(ノバベル)』を製作し、3部作が完結しました。この映画で第59回カンヌ国際映画祭監督賞を受賞し、アカデミー賞においては作品賞、監督賞を含む7部門にノミネートされました。4作目の映画、2010年に製作されたスペインを舞台にした『Biutiful(ビューティフル)』もまた、外国語映画賞を含む2つのアカデミー賞にノミネートされました。コメディという新しい分野への挑戦となった現在編集作業中の最新作『Birdman(バードマン)』は、すべての撮影がニューヨークで行われました。

イニャリトゥはこれまで4つの短編映画も製作しています。『Power Keg』(2001年カンヌライオンズグランプリ受賞)、『11.09.01(セプテンバー11)』の一編となった『Darkness(ダークネス)』(2002年)、カンヌ映画祭60回記念製作映画『それぞれのシネマ』の一編となった『Anna(アナ)』(2007年)、そして試験的なダンスの短編映画『Naran Ja』(2012年)です。イニャリトゥの代表的なコマーシャル作品には、カンヌで金獅子賞を獲得したナイキの『Write the Future』(2010年)、数々の賞を獲得したP&Gの広告『Best Job』(2011年)、Facebookの最初のコマーシャル『The Things That Connect Us』(2012年)などがあります。

## プロトジェ(生徒): トム・ショヴァル



イスラエル人の映画製作者であり脚本家でもあるトム・ショヴァルは、その鋭い視覚スタイルと表現力で高い評価を受けています。大の映画好きだった父親の影響で、ショヴァルは早くから熱心な映画ファンになりました。数々の映画に胸をおどらせたが、その中でも13歳の時父親に連れられて行ったハリウッドへの旅が、ショヴァルの人生を変えることとなりました。高校では映画を専攻し、軍では映像部隊に所属、イスラエルの若き短編映画監督のグループであるBaboon Groupを共同設立しました。2007年にエルサレムのサム・スピーゲル映画・テレビ学校を卒業しました。同校の設立者で校長、著名な映画人でもあるレネン・ショアは、ショヴァルを「これまでに会った中で才能と熱意を最も持ち合わせたひとり」と話しています。これまでに賞を受賞した短編映画、『*The Hungry Heart*(飢えた心)』(2005年)、『*Shred of Hope*(わずかな希望)』(2007年)、『*I will drink my tears*(自分の涙を飲む)』(2011年)は世界中の映画祭で上映されています。イスラエルの中流階級が抱える問題を取り上げた社会派ドラマでありサスペンスでもある、長編映画デビュー作の『*Youth*(若さ)』(2013年)は、ベルリン映画祭で上映され、エルサレム映画祭の最優秀作品賞をはじめとする数々の賞を受賞しています。現在ショヴァルは、映画の教師とテレビ脚本家を務めています。アレハンドロ・ゴンザレス・イニャリトウの『*Amores Perros*(アモーレス・ペレス)』に早くから感銘を受けたショヴァルは、イニャリトウによる指導を糧に2作目の長編映画を作りたいと望んでいます。

生年月日: 1981年9月8日

## 文学

メンター(指導者): マイケル・オンダーチェ



ニューヨークタイムズ誌が「鮮やかなイマジネーションの空間に読者を引き込む魅力的な作家」として絶賛したマイケル・オンダーチェ(1943年9月12日生まれ)は、示唆に富んだ語り口と叙情的なスタイルで知られています。50年にわたり、彼はその高い言語能力が国際的に評価され、数多くの文学賞を獲得してきました。

オンダーチェの作品に反映される多文化主義は、彼自身の歩んできた人生と呼応します。セイロン(現在のスリランカ)に生まれた彼は、少年期にイギリスに渡った後、カナダに移住して大学で学び、ヨーク大学のグレンドン

カレッジで数年間にわたり教鞭を執りました。その後、作家生活に入ります。

オンダーチェはまず、詩集『*The Dainty Monsters*(繊細な怪物)』(1967年)で詩人としての名声を得ます。1970年には『*The Collected Works of Billy the Kid*(ビリー・ザ・キッド全仕事)』で全部で5回のうちの最初のカナダ総督賞を受賞しました。今日までに出版された詩集は12冊に上ります。

小説家として最もよく知られるオンダーチェは、しばしばドキュメンタリーと実在人物のフィクションを融合させます。ジャズミュージシャン、バディ・ボールデンを描いた『*Coming Through Slaughter*(バディ・ボールデンを覚えているか)』(1976年)は彼の初めての小説であり、続いて『*In the Skin of a Lion*(ライオンの皮をまとって)』(1987年)を発表、そして『*The English Patient*(イギリス人の患者)』でカナダ人として初めてブッカー賞を受賞します。ベストセラーとなったこの小説が映画化され、オスカーを複数獲得したことで彼は一躍有名になりました。最近の作品では、現代のスリランカを描いた『*Anil's Ghost*(アニルの亡霊)』(2000年)がフランスのメディシス賞とアイリッシュ・タイムズ・フィクション大賞を獲得、その他『*Divisadero*(ディビザデロ通り)』(2007年)、『*The Cat's Table*(名もなき人たちのテーブル)』(2011年)などがあります。

また、オンダーチェはノンフィクション作家としても知られています。『*Running in the Family*(家族を駆け抜けて)』(1982年)は明るく心温まる回顧録であり、『*The Conversations: Walter Murch and the Art of Editing Film*(映画もまた編集である—ウォルター・マーチとの対話)』は、2012–2013年度のロレックス メンター&プロトジェアート・イニシアチヴにおける映画のメンター、ウォルター・マーチによる映画編集の美学について語っています。

さらに、オンダーチェはドキュメンタリー2編も制作しています。ひとつは「コンクリートの詩人」ビー・ピー・ニコルについて、もうひとつはトロントのシアター・パッセ・ムレイユがテーマとなっています。コーチハウス・プレス編集者時代には、数年にわたり、文学雑誌*BRICK*の編集を手掛けていました。現在はカナダのトロント在住。

## プロトジェ(生徒): ミロスラフ・ペンコフ



ブルガリア生まれの作家ミロスラフ・ペンコフは、ブルガリアに関する文章を世界中の人々に読んでもらうことによって、「声なき人々に声を与える」ことを望んでいます。また、経済危機による長年にわたる苦境を脱した現在、ブルガリアの人々が再び自国の文学を読むようになることも望んでいます。ノーステキサス大学でクリエイティブライティング・プログラムの英語准教授を務めるペンコフは、19歳の時にアーカンソー大学で心理学を学ぶために初めて渡米しました。短編小説作家でもあるエレン・ギルクリスト教授に才能を見出され、創作を続けるよう励まされたペンコフは、最終的に2009年、クリエイティブライティングの修士号を取得しました。ペンコフの処女短編集、『*East of the West: A Country in Stories*(西洋の東:物語の中のある国)』(2011年)は2012年度BBC国際短編小説賞をはじめとする数々の賞を受賞しています。短編小説『*Blood Money*(血まみれの金)』(Granta出版、2013年)では、ブルガリアの人種的不寛容さを取り上げています。この2年間は、長編小説『*Nominalia of the Imaginary Khans*(架空の支配者たちの名前)』の執筆に取り組んでいます。ペンコフは、英語とブルガリア語で書かれた自分の作品を鎖の輪だと認識しています。敬愛する英語で執筆する現代小説家であるマイケル・オンダーチェによる指導を「意味のある偶然」と呼び、心待ちにしています。

生年月日:1982年8月21日

## 音楽

メンター(指導者): カイヤ・サーリアホ



一流かつ最も独創的な現代の作曲家のひとりとして認められているカイヤ・サーリアホ(1952年10月14日生まれ)は、伝統楽器と電子楽器を融合させた室内楽や管弦楽曲、オペラなどのすばらしい作曲で知られています。「サーリアホは聴衆に、彼らが待ち望んでいる最も輝かしく、魅力的でひたすら官能的な体験をもたらしてきた。」とロンドンのガーディアン紙は評しています。

フィンランドでの幼少期、サーリアホは多くの楽器に触れて育ち、夢の中でメロディーを呼び起こしていました。「音楽が枕の下からやってくることを想像しました。」と彼女は話します。1976年よりヘルシンキ、フレイブルグ、パリで作曲を学びました。1982年以来ほぼパリに常住しています。IRCAM(フランス国立音響音楽研究所)で、サーリアホはコンピューターを使った作曲テクニックを開発し、それが彼女の作品に多大な影響を与えることになりました。

サーリアホの初期の代表的な作品は、『*Verblendungen*(フェルブレンドウンゲン)』(1984年)やリンカーン・センターの依頼でクロノス・カルテットが初演した『*Nymphéa*(睡蓮)』(1987年)です。彼女がアミン・マーロフ(脚本家)やピーター・セラーズ(演出家)、エサ=ベッカ・サロネン(指揮者)ら他のアーティストとコラボレーションを組んだ数多くの作品の中には、グロマイヤー賞を獲得した『*L'Amour de loin*(彼方からの愛)』(2000年)、『*Adriana Mater*(アドリアナ・マーテル)』(2006年)、『*Emilie*(エミリー)』(2010年)の3つのオペラ作品や、オラトリオ『*La Passion de Simone*(シモーヌの受難)』(2006年)があります。近年では古代ペルシャの詩にインスピレーションを受けた管弦楽曲『*Circle Map*』(2012年)を作曲。また、モンリオール交響楽団、リヨン国立管弦楽団、サウスバンク・センター、フィルハーモニア管弦楽団より依頼された、オルガンとオーケストラのための作品『*Maan Variot*』を2014年5月に初演する予定です。

世間の称賛を浴び、世界的に評価される数少ない現代音楽の作曲家のひとりとして、サーリアホはオンラインマガジンのMusical Americaで2008年のミュージシャン・オブ・ザ・イヤーに選ばれました。また、2013年の8月には、「モダン・マエストロ(現代の偉大なる音楽家)」としての音楽界への多大なる貢献を称え、かつてロレックスメンター&プロトジェアート・イニシアチヴでメンターを務めたユッサー・ンドゥールとともに、スウェーデンの2013年ポーラー音楽賞を受賞しました。

## プロトジェ(生徒): ヴァスコ・メンドンサ



ポルトガル人作曲家のヴァスコ・メンドンサの作品は、国際的な音楽シーンで大きな注目を集め始めています。「メンドンサは天才的アーティストであり、その作品はハイレベルな技巧が凝らされていて素晴らしい聴覚的想像力に満ちている。」イギリス人作曲家で元教師であるジョージ・ベンジャミンはこう話しています。リスボンとアムステルダムで音楽を学んだ後、メンドンサは2007年から2008年にかけてキングス・カレッジ・ロンドンで研鑽を重ねました。さらに、この5年間は、リスボンで楽曲分析の教鞭もっています。近年注目すべき作品には、オールドバラ、エクス・アン・プロバンス、ヴェルビエール音楽祭から共同依頼を受けた室内楽楽曲、『*The Boys of Summer* (夏の少年たち)』(2012年)、(いくつかの作品の初演を行い、マスタークラスの講師として招かれたこともある)エクス・アン・プロバンス音楽祭とLOD音楽劇場から依頼を受けた1時間におよぶ室内歌劇、『*The House Taken Over* (乗っ取られた家)』(2013年)があります。最近では『*Ping* (ピン)』(2013年)がイギリスのウェールズ音楽劇場で初演されました。カイヤ・サーリアホが生み出す彫刻のようなサウンドスケープに長く魅了されてきたメンドンサは、サーリアホによる指導期間で声楽作品や音楽劇の分野を探求してみたいと思っています。今後はパーカッション5重奏とアンサンブル用の室内楽曲を新たに2作品、オペラと音楽劇場用に2作品を作曲する予定です。

生年月日: 1977年7月3日

## 舞台芸術

### メンター(指導者): ジェニファー・ティプトン



「世界一優れた照明クリエイター」とニューヨークタイムズ誌が絶賛するジェニファー・ティプトン(1937年9月11日生まれ)は、半世紀にわたり演劇、舞踊、オペラ作品における照明デザイナーとして多大な貢献をしてきました。2008年には、アメリカのマッカーサー基金が「照明とパフォーマンスの関係を再定義した」ティプトンの万能なデザインを称し、ジーニアス賞を授与しました。

天体物理学を学ぶために、コーネル大学に入学したティプトンは1958年、英語学の学位とともに、ダンスへの決意を固めて卒業します。ニューヨークで数多くのダンス・カンパニーと仕事をした後、有名な照明デザイナーであるトーマス・スケルトンの元で学び、1963年に彼のアシスタントになりました。「ダンスを始めた頃から既に光に心を奪われていました。」とティプトンは話します。「言葉を使わずにコミュニケーションをとり、空間を満たす。光とはボリュームなのです。」

舞踊のための照明デザインで広く知られるティプトンは、1960年代半ばから仕事を続けてきたポール・テイラー・ダンス・カンパニーの主任照明デザイナーを務めています。またアメリカン・バレエ・シアターとも早い時期から関わりを持ち、1973年イタリアのスポレートにおけるジェローム・ロビンスのタペにおいて名を挙げました。以来、世界で最も有名な振付家とのコラボレーションを続け、数多くの演劇やオペラ作品でも活躍しています。近年、手掛けた作品のひとつに、アメリカン・バレエ・シアターの『*Shostakovich Trilogy*(ショスタコーヴィチ3部作)』があります。アレクセイ・ラトマンスキー(2014-2015年度ロレックス メンター&プロトジェ アート・イニシアチブのメンターの一人)による振付けのこの作品は、メトロポリタン・オペラハウスで上演されました。

長年、エール大学ドラマスクールのデザイン科非常勤講師としても情熱を注いできたティプトンは、同時代の照明デザイナー達に影響を与えただけでなく、照明の新しい方向性も示してきました。彼女はその革新的な仕事により、ベッシー賞、オビー賞、トニー賞、そして芸術界において最大の賞のひとつであるドロシー&リリアン・ギッシュ賞(2001年)、ジェローム・ロビンス賞(2003年)など数多くの主要な演劇賞に輝いています。

### プロトジェ(生徒): セバスチャン・ソローザノ・ロドリゲス



メキシコ人照明デザイナー、セバスチャン・ソローザノ・ロドリゲスは、照明を使ってビジュアル・アーティストとしての自身を表現しています。「照明をデザインする際にはいつも絵画や実験映画がとても参考になります」と彼は話しています。ダンサーと俳優の子として生まれ、劇場の舞台裏を遊び場にして育った彼にとって、照明に対する情熱は遺伝ともいえます。学校ではなく仕事から照明デザインを学ぶ決心をしたロドリゲスは、2009年に舞台の背景画家としてキャリアをスタートさせ、その後制作会社Cornamusaの舞台美術、照明アシスタントになりました。メキシコ国立現代舞踊団のCentro de Producción de Danza Contemporaneaの舞台照明の制作も始めました。

これと並行してLuz Y Fuerza: Cine Expandidoに参加しています。これはロドリゲスが共同設立した様々な分野に渡るグループで、インスタレーション・アートや映画のライブ上映のために照明器具を手作りしています。最近の作品にはメキシコシティにあるエクス・テレサ現代美術館での『*Poéticas del Encuentro*』(詩との遭遇)があります。ロドリゲスは同グループと協力し、地方のコミュニティで拡張映画と実験映画、照明プロジェクター構築についてのワークショップを実施しています。こうしたセッションからクリエイティブな交流や相互学習の重要性を学んだことが、ジェニファー・ティプトンによる指導期間での成果につながるとロドリゲスは期待しています。

生年月日: 1986年3月13日

## 視覚芸術

メンター(指導者): オラファー・エリアソン



デンマーク生まれのアイスランド人、オラファー・エリアソンはスパン フォトグラフィー、インスタレーション、彫刻、映画に至る彼の作品のすべてを「実験的なセットアップ」と説明します。エリアソン(1967年生まれ)は、2003年、第50回ヴェネチア・ビエンナーレにおいてデンマーク代表となり、同年にはロンドンのテート・モダンで『*The weather project*(ウェザー・プロジェクト)』を展示しました。2007年にSFMOMAによって企画された調査エキシビション、『*Take your time: Olafur Eliasson*(テイク・ユア・タイム:オラファー・エリアソン)』は、2010年までニューヨーク近代美術館を含む数々の会場に移動し、開催されました。2010年にマーティン・グロピウス博物館で発表された『*Innen Stadt Aussen*(インナー・シティ・アウト)』は、館内だけでなくベルリン市内のあちこちに作品が展示されました。同様に、2011年にはサンパウロ周辺の3つの施設、SESC ポンペイア、SESCベレンジーニョ、サンパウロ・ピナコテカ美術館と、市内全体に『*Seu corpo da obra*(ユア・ボディ・オブ・ワーク)』が展示されました。公共スペースにおけるエリアソンの作品には1998年から2001年の間に様々な都市で開催された『*Green River*』、シェティルトールセンとともにデザインを手掛けたサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2007、2008年夏にマンハッタンとブルックリンの河岸沿いに設置された、パブリック・アート・ファンドの依頼による『*New York City Waterfalls*(ニューヨーク・シティ・ウォーターフォール)』などがあります。

2001年には、デンマークのオーフス市にあるARoS美術館の建物の屋上に設置された150メートルの円形の色付きガラスでできた通路『*Your rainbow panorama*(ユア・レインボー・パノラマ)』がオープンしました。また、エリアソンとヘニング・ラーセン・アーキテクツのコラボレーションで製作されたハーバ・レイキャビク・コンサートホール&カンファレンスセンターのファサードは、2013年のEU現代最優秀建築賞(ミース・ファン・デル・ローエ賞)を受賞しました。エリアソンの最新プロジェクト『*Little Sun*』では、エンジニアのフレデリック・オットセンとともに、世界中で16億人もいる電気が届かない地域の人々の生活を向上させるために太陽光発電のランプを開発しました。1995年に設立された彼のベルリンスタジオには約70人の職人と建築家、幾何学者、美術史家が所属しています。2009年から2014年にかけてこのスタジオにおいて、ベルリン芸術大学の教授という立場から5年にわたる芸術学の実験的プログラムInstitut für Raumexperimente(インスティテュート・フォー・スペーシャル・エクスペリメンツ)を指揮しました。

## プロトジェ(生徒): サミー・バロジ



芸術家・写真家のサミー・バロジは、母国であるコンゴ民主共和国とベルギーとの間で、人々の記憶に刻まれる、コンゴのフォトモンタージュを制作しています。「写真というツールを使い、自身の社会を描いています」と話す彼の作品について、ロンドンにあるテート・モダンの館長は「豊かな形式と強烈な内容」と評しています。バロジはカタンガ州にあるルブンバシ大学を卒業後、漫画家としてキャリアをスタートしました。1993年、ビカノスクラブ (Vicanos Club) アート・コレクティブの創設に携わり、写真に焦点を置くようになります。彼の写真作品は、ヨーロッパ、米国、アフリカで広く展示されています。最も有名なシリーズは、カタンガ州のかつて鉱業で栄えた頃の姿と、産業の衰退した現状を並置した『*Mémoire*』(メモリー、2006年)です。Afrique en création 賞(2007年)、プリンスクラウス賞 (Prince Claus Award、2008年)、シュピーゲル賞 (Spiegel Prize、2012年)を受賞したバロジは、ルブンバシ・ビエンナーレ(隔年の美術展)を創設し、これがきっかけとなり、コンゴ民主共和国の新進芸術家への支援を目的としたピチャ・アート・センター (Picha Art Centre) の設立へと至りました。オラファー・エリアソンのコラボレーションも、地元のコンゴ人アーティストのための、総合的なスタジオ設立につなげたいと考えています。

生年月日: 1978年12月29日



## 2001-2015年アドバイザー

**NINA ANANIASHVILI**

ballerina

**PIERRE AUDI**

performing arts director

**THE LATE PINA BAUSCH**

choreographer and dancer

**TAHAR BEN JELLOUN**

novelist, poet, essayist

**BARRY BERGDOLL**

professor and curator

**HOMI K. BHABHA**

professor and literary theorist

**MANUEL BORJA-VILLEL**

art historian and museum director

**ANDRÉ BRINK**

writer

**TRISHA BROWN**

choreographer and dancer

**JONATHAN BURROWS**

choreographer and performer

**DAME ANTONIA S. BYATT**

novelist, short-story writer and critic

**JANE CAMPION**

film director

**PETER CAREY**

author

**CAROLYN CARLSON**

choreographer and dancer

**SIDI LARBI CHERKAOUI**

choreographer and dancer

**SIR DAVID CHIPPERFIELD**

architect

**CHRISTO AND THE LATE  
JEANNE-CLAUDE**

visual artists

**ALAIN COBLENCÉ**

attorney and philanthropist

**MARÍA DE CORRAL**

curator and critic of visual arts

**ALFONSO CUARÓN**

film-maker

**BICE CURIGER**

curator

**GUY DARMET**

cultural producer, dance

**ANNA DEAVERE SMITH**

theatre artist

**ARIEL DORFMAN**

author

**MARTIN T:SON ENGSTROEM**

cultural producer, music

**NURUDDIN FARAH**

novelist, playwright and translator

**GIAN ARTURO FERRARI**

publisher

**WILLIAM FORSYTHE**

choreographer

**JANE FRIEDMAN**

publisher

**JONATHAN GALASSI**

publisher, translator poet

**FRANK GEHRY**

architect

**AMITAV GHOSH**

novelist and essayist

**GILBERTO GIL**

singer, composer and guitarist

**THE LATE CHARLIE GILLET**

radio broadcaster, author and music producer

**OSVALDO GOLIJOV**

composer

**THE LATE PAUL GOTTLIEB**

editor and publisher

**GARY GRAFFMAN**

pianist and educator

**CYNTHIA GREGORY**

prima ballerina

**JOSEPH GRIMA**

architect, researcher and editor

**AGNES GUND**

collector and philanthropist

**CAI GUO-QIANG**

visual artist

**SIR PETER HALL**

theatre and opera director

**ZAKIR HUSSAIN**

musician

**GERALDINE JAMES**

film, television and stage actress

**JOSEPH KALICHSTEIN**  
pianist

**SIR ANISH KAPOOR**  
visual artist

**ALEX KATZ**  
visual artist

**MARTHE KELLER**  
actress and opera director

**ANGÉLIQUE KIDJO**  
singer and songwriter

**JIŘÍ KYLIÁN**  
choreographer

**ELIZABETH LECOMPTE**  
theatre director

**REYNOLD LEVY**  
philanthropist and producer

**DANIEL LIBESKIND**  
architect

**HARVEY LICHTENSTEIN**  
cultural producer, performing  
arts

**CHO-LIANG LIN**  
violinist

**LIN ZHAOHUA**  
theatre director

**TOM LUDDY**  
film producer and film festival  
director

**SIR NEVILLE MARRINER**  
conductor

**PETER MAYER**  
publisher

**FRANCES MCDORMAND**  
actress

**SONNY MEHTA**  
publisher

**JOSEPH V. MELILLO**  
cultural producer

**THE LATE ANTHONY  
MINGHELLA**  
film director, producer and  
writer

**YOKO MORISHITA**  
prima ballerina

**MARK MORRIS**  
choreographer

**THE LATE ELIZABETH  
MURRAY**  
painter

**IVAN NABOKOV**  
publisher

**MIRA NAIR**  
film-maker

**RYUE NISHIZAWA**  
architect

**THE LATE CLAUDE NOBS**  
music festival director

**CEES NOOTEBOOM**  
novelist and poet

**JESSYE NORMAN**  
soprano

**HANS ULRICH OBRIST**  
curator, critic and historian

**BEN OKRI**  
poet and novelist

**MICHAEL ONDAATJE**  
novelist and poet

**GABRIEL OROZCO**  
visual artist

**GIUSEPPE PENONE**  
visual artist

**JULIA PEYTON-JONES**  
curator

**AIDAN QUINN**  
film, television and stage actor

**CHARLOTTE RAMPLING**  
actress

**THE LATE LYNN REDGRAVE**  
film, television and stage  
actress

**EVE RUGGIERI**  
cultural producer, music

**ESA-PEKKA SALONEN**  
conductor and composer

**GUSTAVO SANTAOLALLA**  
musician and composer

**CARLOS SAURA**  
writer and film director

**KAZUYO SEJIMA**  
architect

**PETER SELLARS**  
theatre and opera director

**SIR NICHOLAS SEROTA**  
museum director and curator

**FIONA SHAW**  
actress

**CINDY SHERMAN**  
visual artist

**LADY VALERIE SOLTÍ**  
author and philanthropist

**WOLE SOYINKA**  
author

**ALISTAIR SPALDING**  
cultural producer, dance

**THOMAS STRUTH**  
photographer

**HIROSHI SUGIMOTO**  
visual artist

**DO HO SUH**  
visual artist

**JULIE TAYMOR**  
theatre, film and opera director

**JENNIFER TIPTON**  
lighting designer

**JOSÉ VAN DAM**  
bass-baritone

**ROBERT WILSON**  
theatre artist



## ロレックス・インスティテュート

### 個人の優れた才能を奨励するフィランソロフィー活動および教育活動

揺るぎないパイオニア精神により、ロレックスは時計製造において数々の技術革新を成し遂げ、卓越性のシンボルとして世界中にその名を馳せています。クオリティ、ノウハウ、そして個人による偉業を大切にブランドの価値観は、すべての企業活動に及びます。創業以来、ロレックスは世界中の第一人者の方々と良い関係を築き、様々な分野で活躍する人々を支援してきました。

ロレックス・インスティテュートは、こうした哲学を具現化するための機関です。その活動にはロレックスの行う社会貢献や教育機関への支援などが含まれ、優秀な才能を見出し、社会に大きく貢献することを目的としています。インスティテュートはジュネーブのロレックス本社にある専門チームが運営しており、次のようなプログラムを実施しています。

『**ロレックス賞**』は、1976年に世界初の防水腕時計「ロレックス オイスター」の開発50周年を記念して設立されました。人類に貢献するために大きな課題に挑む先駆者のサポートを目的としています。この賞は科学と健康、応用技術、探検と発見、環境、文化遺産の各分野において、人類の知識と福利向上のために、画期的なプロジェクトに取り組むパイオニア精神にあふれる人々を支援します。

2010年にはロレックス賞の枠を広げ、18歳から30歳までのパイオニアたちを支援する『**ヤングローリエイツ**』を設立しました。

『**ロレックス メンター&プロトジェ アート・プログラム**』は、7つの芸術分野において才能あふれる若いアーティストと、世界を代表する第一人者を結び付け、1年間にわたる一対一の相互交流の機会を提供します。2002年の設立以来、本プログラムはアーティストによる国際的なコミュニティの構築に貢献しています。

ロレックス・インスティテュートは、時計製造分野での教育活動においても高い評価を得ています。スイス連邦工科大学・ローザンヌ校(EPFL)に新しくオープンした**ロレックス・ラーニングセンター**に対する資金提供もそのひとつです。

また、ペンシルバニア(アメリカ)とムンバイ(インド)にはロレックスの出資による**時計技術者育成スクール**があります。これらの学校では、時計業界が求める高度な技術を教授しており、卒業生の進路はロレックスに限らず多岐にわたります。